

### 3. 低年齢児における歯・口腔外傷の診療に対する歯科衛生士の役割

伊東歯科 淀川 尚子

低年齢児期における歯や軟組織への打撲・外傷の頻度は歩行開始期の1歳から2歳を中心に高いといわれており、当院での経験からも同様のことが観察されており、またその外傷の種類も様々である。

当院は、地域における救急医療の確保から、過去20年間24時間診療応需体制を組織しているため、このような小児の外傷に遭遇することが多い。

1歳から2歳という、これまでに大きな外傷の経験が殆どないため、患者本人である子供もさることながら、特に母親のショック、動揺は測りしれないものがあることを痛感する。

今回、このような場面で、私たち歯科衛生士が果たすべき役割を検討してみた。診療、手術の的確な補助はもとより、付き添いの保護者に対して、精神面への配慮とあわせて、口腔の管理・清掃、介護、食事などどのように指導しているか、これまでの経験をもとに報告したい。

### 4. 定期検診の定着・継続化のために

かとう小児歯科 原口 理絵

お母さんや子供達を啓蒙し、口腔内を育ててゆくためには、定期検診が不可欠です。定期検診を定着・継続化するために各歯科医院とも種々の努力をされていることと思います。

定期検診を続けてもらうには、お母さんや子供達の心を把むことが大切です。来院されるお母さんには、様々なタイプがあり、又同じお母さんでもその時の状況で情熱が異なります。それぞれのお母さんのニーズに応えるためには、幅広い対応が柔軟にできる体制を整える必要があります。

当院は平成2年10月に開業し、5年が過ぎようとしていますが、満2年経過した時点で定期検診来院率の向上を目的に調査を行い、中断や脱落に至る要素にパターンがないか調べてみました。その時の結果や反省をもとに定期検診のバリエーションを増やし、来院毎に新しい情報を提供できるよう努力してきました。

定期検診の定着・継続化の主な鍵としては、①母親（本人）の歯科処置に対する意識（理解）の深さ。②定期検診システムの充実。③よりよい診療・魅力的な病院づくり。④定期検診脱落患者の把握と対応。の4つが考えられます。今回の発表では、お母さんや子供達が飽きずに来院できるように、以上4つの鍵に関して当院で行なっている工夫点等を、お話したいと思います。